

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4572100610
法人名	医療法人 浩洋会
事業所名	グループホームゆりかもめ
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町東栄町4-5-14 (電話)0982-50-4189
評価機関名	宮崎県医師会医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1-101
訪問調査日	平成20年6月26日

【情報提供票より】(20年 6月 2日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13 人, 非常勤	人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋・平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

(4)利用者の概要(6月 2日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 73 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田中病院・木村歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR駅から徒歩で5分、国道にも近く母体の病院に隣接し、近くには花屋・本屋・スーパーがあり利便性の良い場所にホームは立地している。開設から5年たち、認知症介護経験豊かな管理者・職員がそろう「その人のペースで自由にその人らしく笑顔で生活できる」を理念にサービス向上に取り組んでいる。母体の病院の行事への参加や、災害時の応援など病院の協力を得ながら、利用者の急変にも対応でき安心感のある生活を支援している。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画については、日々の申し送りノートを活用し、気づいたことや問題点を書き込み、それを基に3か月ごとの見直しに取り組んでいる。施設については、見守りや一緒に外出するなどの対応で、できるだけ施設しない取り組みを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・全職員で話し合い、自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町担当者、包括支援センター職員、地区の代表者、家族の代表者をメンバーに定期的に開かれており、出された意見をサービスの向上に活かしている。地域の方々の協力が得られやすくなるように地区の民生委員にも働きかけてさらに充実させてほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には毎月ホーム便りを発行し、手紙などを書き加え近況を伝えている。家族の訪問時に暮らしぶりや健康状態などを伝え相談や苦情を気軽に言える雰囲気づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	老人会の行事や草取りなど地域活動に参加している。また、母体の病院が開催する地域を取り込んだ文化祭などに参加している。利用者と一緒に食材の買い物に出かけたり、近くの公園を日常的に利用して地域に馴染んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人のペースで自由にその人らしく笑顔で生活できる」を理念に掲げ、職員とサービス向上に取り組んでいる。契約書にも利用者の権利として、「地域社会の一員としての生活」を明記している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者一人ひとりのニーズやペースに合わせた介護や声かけに努め日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会の行事や草取りなど地域活動に参加している。また、母体の病院が開催する地域を取り込んだ文化祭などに参加している。	○	ホームへ地域の方々に訪問してもらい、交流の機会が持てるような取り組みも期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	これまでの評価を活かして、フェンスや花壇の改善、浴槽の手すりの設置など具体的に改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的開催し、評価結果の報告や話し合いが行われている。そのことが、改善への取り組みの力になっている。		メンバーに地域の民生委員の参加も呼びかけ、さらに地域との関わりを充実させてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターや担当者には定期的に実情や情報など報告して、適切な指導を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月（ゆりかもめ便り）を発行している。行事の写真を掲載し、個別の近況などを書いた手紙も添えて近況を知らせており、好評を得ている。訪問時には個別の小遣い帳を明示して確認を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	餅つき・年1回の茶話会・なし狩りなど家族と交流の機会は設けてはいるが、参加者は少なく、意見などを聞く機会が少ない。		家族の意見を吸い上げる取り組みを今後も続けてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の移動はあるが、馴染みの顔でありダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や法人内部の研修などに積極的に参加している。介護福祉士の資格取得にも積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会して、管理者、職員が出席し情報交換やネットワーク作りの取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お茶を飲んでいただいたり、食事に来ていただいたりして雰囲気になじんでいただき、サービス利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理法を習ったり、行事についての豊富な知識を伝授していただいたりしながら、悲しいときには共に涙し、またうれしいときには共によるこんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートや家族からの情報をもとに、職員間での会議を行い申し送りノートなどを利用しながら、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族と手紙や電話での話し合いを行い、担当者会議を開き、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の申し送りノートに職員が気づいたことや問題点などを書き込み、それを基にして会議を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のその時々要望に応じて、柔軟な外出支援などの対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院をかかりつけ医にしている利用者がほとんどであるが、利用者それぞれのかかりつけ医の受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでは、母体法人の病院や他のサービスと連携して、入院加療が必要になった時々に応じた対応が出来ていたので、終末期のあり方について話し合う機会はなかった。開設から5年が経ち、重度化してきているので、方針の共有化の必要性を感じている。	○	家族や本人の思いを聞いて、早い段階での今後の方針についての話し合いなどの取り組みをすすめてほしい。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人に合った声かけ、対応をしている。記録・個人情報の取り扱いには同意を得て十分注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態や希望にそって、外出や散歩など支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備やセッティング、テーブル拭きや片付けをしている。全員ではないが一緒に買い物に行き食材選びも行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。夕食後の希望があれば応じる体制はとっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手遊びやドライブ・誕生会など計画し、実施されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園に定期的に出かけ、ゲートボールの様子をながめたり散歩したりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しており、見守りや外に出られたい様子が見られるとさりげなく寄り添い一緒に出かけるなどの対応をして、なるべく施錠しないようにしているが、帰宅欲求や不穏状態の時に、施錠することもある。	○	鍵をかけないケアの取り組みをさらにすすめてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回、防災訓練を実施している。入居者も職員も方法を身につけており避難にかかる時間が早くなってきており訓練の成果が出ている。年1回の夜間の訓練・消火訓練を実施しており、母体の病院の協力も得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事量・水分摂取量を記録しており、状態に応じたの支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	所々天窓から自然光が入り、柔らかい雰囲気を出している。外出したときどきの写真や絵画が壁にかけてあり、家庭的で落ち着きがあり、居心地良く過ごせる工夫をしている。花壇には四季折々の花が植えられ季節感を出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と入居者の手作りののれんが各部屋にかけてあり、好みに合った家具や馴染みのものを持ち込みその人らしく居室を整えている。		